

# たまエコ

## TAMA ECO NEWS

# ニュース

CONTENTS

- 表紙
- 中面・谷戸沢処分場40周年
- 裏表紙・オオムラサキ見学会
- ・夏休み処分場見学会
- ・日の出町だより

埋立中の様子(1998年頃)

現在の谷戸沢処分場(2023年頃)



## 特集 谷戸沢処分場40年の歩み

～谷戸沢処分場から二ツ塚処分場、エコセメント化施設へ～



二ツ塚処分場

### 谷戸沢処分場開設40周年記念あいさつ

管理者(多摩市長)  
阿部 裕行



東京たま広域資源循環組合の管理者の阿部裕行でございます。日頃より、日の出町の皆様方には、多摩地域25市1町、約400万人の家庭から出されるごみの最終処分に当たり、多大なるご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昭和59年4月に埋立てを開始した谷戸沢処分場は、令和6年4月に、開設から40周年を迎えました。平成10年4月に埋立てを終了した後は、周辺環境の安全性に万全の配慮を行いながら維持管理に努めるとともに、里山的自然環境の再生に取り組んでいます。

国蝶オオムラサキや、生態系ピラミッドの頂点に位置するフクロウが営巣するなど、豊かな自然環境の再生が順調に進んでいます。

また、平成29年10月にはメガソーラー施設(太陽光発電システム)が稼働し、再生可能エネルギーの活用による環境保全に向けた取組も進んでいます。

谷戸沢処分場埋立終了に伴い、平成10年1月に開場した二ツ塚処分場では、平成18年7月から、場内に設置したエコセメント化施設を本格稼働させ、焼却灰の全量をセメントにリサイクルすることで、資源循環を図っています。

今後も当組合は、日の出町の皆様方の深いご理解のもとに成り立っていることを決して忘れず、多摩地域約400万人の生活を支える最終処分場として大切に使い続けられるよう全力で取り組んでまいりますので、引き続きよろしくご厚意申し上げます。

## 多摩地域25市1町のごみは 日の出町にある 最終処分場へ運ばれます

東京たま広域資源循環組合は二ツ塚処分場・谷戸沢処分場を管理・運営している特別地方公共団体で、日の出町の皆様のご理解とご協力をいただきながら、多摩地域25市1町、約400万人のごみの最終処分を行っています。搬入された焼却灰は、全量をエコセメントにリサイクルし、資源循環を図っています。また、不燃ごみもリサイクルの進展により、平成30年度から埋立てがありません。



二ツ塚処分場



谷戸沢処分場

有害ごみは  
正しく分別しよう!

<有害ごみの一例>

蛍光灯 乾電池 水銀体温計 など

有害ごみの分別が正しく行われないと、可燃ごみ焼却施設・不燃ごみ処理施設や最終処分場の運営に支障が出てしまいます。

それぞれの市や町で決められている方法・決められている日に有害ごみを出しましょう。

組織団体

八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、西東京市、瑞穂町



# 谷戸沢処分場開場から40年の歩み

～谷戸沢処分場から二ツ塚処分場、エコセメント化施設へ～

谷戸沢処分場は平成10年に埋立てが終了しましたが、循環組合ではその後も継続して、適切な維持管理を行っています。その結果、自然環境が順調に再生し、多様な動植物が暮らす自然環境になっています。

## 東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合 (現：東京たま広域資源循環組合)設立

### 多摩地域のごみ問題解決を目指して

高度経済成長時代の人口増加やライフスタイルの変化(大量消費)は、ごみの排出量を急激に増加させ、ごみの質を変化させました(プラスチックごみが増加)。そこで、最終処分場の確保に苦慮していた多摩地域27市町が、「東京都三多摩地域廃棄物広域処分組合」を設立しました。

昭和55年  
(1980年)

昭和59年  
(1984年)

## 谷戸沢処分場開場

### 日の出町の皆様のご理解・ご協力のもとで開場した、最初の処分場

谷戸沢処分場は、様々な議論や困難を克服し、日の出町の皆様のご理解・ご協力のもと、「内陸型埋立処分場」のモデルケースを目指し、開設されました。その後14年間に渡ってごみの埋立てを行い、平成10年4月に埋立てが終了しました。



平成10年  
(1998年)

## 二ツ塚処分場開場

### 谷戸沢処分場に次ぐ、2つ目の最終処分場

地域の自然環境との調和を図り、環境保全・災害対策等に万全を期することを基本方針として建設を進め、日の出町の皆様にご理解・ご協力をいただきながら、1月に二ツ塚処分場での埋立開始を迎えることができました。



## 谷戸沢記念館開設・ ビオトープ設置

### 自然環境の再生への取組

谷戸沢処分場の移り変わりや、自然環境の再生状況を紹介するために、「谷戸沢記念館」を開設しました。また、豊かな自然環境を保全、発展させるため、谷戸沢処分場内にビオトープ®を設置しました。

※ビオトープ:動植物が生活できるように造成又は復元された生息空間



平成16年  
(2004年)

平成18年  
(2006年)

平成28年  
(2016年)

## エコセメント出荷量 200万トン達成



令和6年  
(2024年)

平成29年  
(2017年)

## メガソーラー稼働

### 太陽光発電事業の開始

再生可能エネルギーの活用と、谷戸沢処分場の有効利用を図るため、多摩地域最大級のメガソーラー施設による発電を開始しました。発電規模は約2メガワットで、一般家庭約500世帯分の年間使用量に相当します。

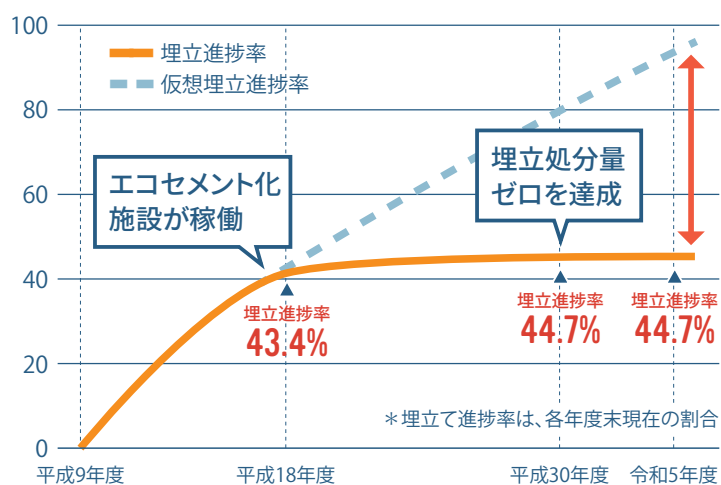


## エコセメント化施設稼働開始

## 最終処分場を丸ごと一つ助けた、エコセメント化施設

～多摩地域400万人の生活を支える、現在、世界に一つのエコセメント化施設～

### ■二ツ塚処分場の「埋立て進捗率」と「仮想埋立て進捗率」



エコセメント化施設が建設されなかった場合、二ツ塚処分場が満杯になり、新たな最終処分場の建設が必要となる状況でした。エコセメント化施設の稼働により、二ツ塚処分場の全埋立容量の約半分のリサイクルを達成しました。

左のグラフは、現在までの二ツ塚処分場の埋立進捗状況と、もしエコセメント化施設が建設されなかった場合の想定を比較したものです。平成30年度からは、埋立処分量ゼロを継続しています。

### エコセメント出荷量200万トン達成!

令和6年4月にはエコセメント出荷量200万トン達成しました。これまでにリサイクルした焼却灰は約135万トン(容量ベースでは、約118万m<sup>3</sup>)で、二ツ塚処分場の容量に換算すると、全容量の約半分(東京ドーム1つ分の容量)にも上ります。

エコセメント化施設では、製造過程で焼却灰に微量に含まれる金属類も回収することができ、いわゆる「都市鉱山」としての役割も果たしています。



## 「処分組合」から「循環組合」へ

～焼却灰の全量をセメントにリサイクルする「エコセメント化施設」の稼働により、二ツ塚処分場の埋立期間を大幅に延長～

二ツ塚処分場は平成25年に、ほぼ満杯となる見込みでしたが、多摩地域に新たな最終処分場を建設することは極めて困難な状況でした。そこで循環組合は、焼却灰の全量をセメントの原料として活用するために、「エコセメント化施設」を建設することを計画しました。現在、セメントの製造過程では、多くの廃棄物が原料としてリサイクルされ、活用されています。中でも、太平洋セメント(株)等により開発されたエコセメントは、焼却灰を50%以上、主原料として用

いるセメントで、導入により埋立期間の大幅な延長が可能となります。エコセメント化施設は平成18年7月に稼働を開始し、これ以降は焼却灰の埋立が行われなくなり、二ツ塚処分場の埋立期間は、当初予定の16年間で大幅に延長されました。また、廃棄物を埋立処分する事業から、エコセメント製造による資源循環を図る事業に大きくシフトしていくことから、同年に「東京たま広域資源循環組合」に名称変更しました。



エコセメントの製造技術は太平洋セメント(株)等により研究開発が進められて確立した技術です。



# 見学会参加者募集!

定員  
各回60人

## 国蝶オオムラサキ見学会

埋立てが終了した谷戸沢処分場で保全している「国蝶オオムラサキ」の観察や、再生した里山的自然環境を体感する「自然観察ガイドツアー」を開催します。

# 6月29日(土)

第1回 8時15分～11時30分

第2回 9時50分～13時5分

第3回 13時5分～16時20分

- 集合・解散 JR青梅線 河辺駅 ※河辺駅から現地までは、大型バスで移動します。
- 参加対象 多摩地域に在住・在勤・在学の方
- 参加費 無料
- 定員 各回60人、合計180人  
※応募者多数の場合は、抽選により決定します。抽選結果については、別途通知します。
- 申込方法 循環組合ホームページ又は、はがきからお申込みください。  
※当選された方から各回に振り分けしますので、時間の希望は受け付けません。  
※日の出町在住の方は、申込方法が異なりますので、「広報日の出 6月号」をご覧ください。
- 申込締切 6月10日(月)必着



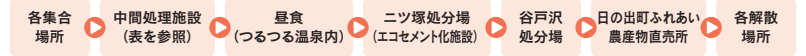
定員  
各回30人

## 夏休み処分場見学会

夏休みに、中間処理施設(清掃工場)や最終処分場の見学を通じて、ごみ処理の流れや最終処分場の歴史を知っていただく機会としてご参加ください。

日程	7月25日(木)	8月1日(木)	8月6日(火)
中間処理施設	八王子市 戸吹クリーンセンター	クリーンプラザ ふじみ	立川市 クリーンセンター
集合・解散	JR八王子駅南口付近	JR三鷹駅北口付近	立川北口公園
時間	8時45分集合～ 17時25分頃解散	8時15分集合～ 18時00分頃解散	8時30分集合～ 17時40分頃解散

共通スケジュール ※各回とも、大型バスで移動します。



- 参加対象 多摩地域に在住・在勤・在学の方
- 参加費 1人500円(昼食代)  
※当日、昼食会場でお支払いください。
- 定員 各回30人、合計90人  
※応募者多数の場合は、抽選により決定します。抽選結果については、別途通知します。
- 申込方法 循環組合ホームページ又は、はがきからお申込みください。
- 申込締切 各日とも、7月1日(月)必着



### <国蝶オオムラサキ見学会>

63円  
切手

〒190-0181  
東京たま広域資源循環組合  
「国蝶オオムラサキ見学会」係

日の出町 大字 大久野 7642番地

国蝶オオムラサキ見学会  
参加希望

- ① 氏名及びふりがな
- ② 年齢
- ③ 郵便番号・住所
- ④ 電話番号  
※日中連絡が取れる番号
- ⑤ 通勤・通学先の市町村名  
(多摩地域に在住でない場合)

### 申込方法



#### インターネットの場合

循環組合ホームページからお申込みください。  
◀オオムラサキ見学会 | 処分場見学会▶



#### はがきの場合

はがきに「国蝶オオムラサキ見学会」または「夏休み処分場見学会」参加希望と明記の上、必要事項を記入してお送りください。

### <夏休み処分場見学会>

63円  
切手

〒190-0181  
東京たま広域資源循環組合  
「夏休み処分場見学会」係

日の出町 大字 大久野 7642番地

夏休み処分場見学会  
参加希望

- ① 参加希望日
- ② 氏名及びふりがな
- ③ 年齢
- ④ 郵便番号・住所
- ⑤ 電話番号  
※日中連絡が取れる番号
- ⑥ 通勤・通学先の市町村名  
(多摩地域に在住でない場合)

## information



## 日の出町だより

HINODE TOWN DAYORI > 2024

vol.72

### 連多瀑が魅力的! 白岩の滝でリラックス

白岩の滝は、日の出町の大久野地域にある滝です。連多瀑になっており、最初は末広がりに流れ落ちる滝があり、その先を進むと岩肌を滑り落ちる滝、さらに上流に進むと約15mの落差を垂直に滑り落ちる滝があります。この一連の滝を総称して白岩の滝と呼んでおり、日の出山への登山客でにぎわう観光スポットとなっています。令和元年に発生した台風19号の影響により一部崩落箇所があり、現在は迂回ルートをご利用いただくこととなりますが、夏でも涼しく、森と滝のマイナスイオンで心身ともにリラックスできる魅力的な場所となっておりますので、ぜひお越しください。



- 交通アクセス JR五日市線武蔵五日市駅から西東京バス「つるつる温泉」行き「白岩滝」バス停下車徒歩20分
- 問合せ先 日の出町産業観光課 商工観光係 Tel.042-588-4101

### 第20回 ひので夏まつり

- 開催日 7月27日(土) 荒天中止
- 会場 日の出町民グラウンド(昨年から変更になります)
- 交通アクセス
  - ・JR青梅線福生駅西口バスのりば①から武蔵五日市駅行または日の出折返場行で「文化の森入口」or「塩沢寛光寺前」下車
  - ・JR五日市線武蔵増戸駅より徒歩25分

※公共交通機関でのご来場をお願いします。  
※掲載内容は変更となる場合があります。  
※詳細につきましては決まり次第HP等でお知らせいたします。

- 問合せ先 ひので夏まつり実行委員会事務局 (日の出町産業観光課商工観光係) Tel.042-588-4101



循環組合の予算・議会の報告などはホームページからご覧になれます▶



## 東京たま広域資源循環組合

〒190-0181 東京都西多摩郡日の出町大字大久野7642番地  
TEL 042-597-6152 FAX 042-597-7886 電子メール toiwase@tama-junkankumiai.com

循環組合では、皆様のご意見などをお待ちしています。

お手紙、FAX、電子メールのいずれかの方法で、「たまエコニュース係」と明記の上、左記であ先にお送りください。

処分場の敷地内や周辺の水質など環境調査の結果を循環組合ホームページで公表しています。

循環組合



<https://www.tama-junkankumiai.com/>

next たまエコニュース次回発行予定 ▶ 2024年12月